

平成24年度 第30回 数理分子生命理学セミナー

日時: 平成25年1月30日(水) 14:35～

場所: 理学部E210 講義室

講師: 矢島 麻美子 先生
(BioMed MCB Department, Brown University・研究員)

演題: 生殖・幹細胞の多分化能メカニズム

要旨: 様々な環境に対応して発生・再生過程を上手く調節できる能力は生物の大きな特徴です。その調節能力を支える主因は、様々な細胞や組織に分化できる細胞の多分化能性にあります。特に生殖細胞や幹細胞では、細胞の多分化能はジェネティック及びエピジェネティック両方のメカニズムで複雑に制御され、個々の生命体の生き残りに貢献します。

棘皮動物は脊索動物と同じ新口動物に属し三胚葉(内胚葉、中胚葉、外胚葉)を持ちますが、新口動物の中でも特筆すべき調節能力と再生能力を持ちます。成体は生殖巣を含めほぼ全ての組織を再生可能であり、胚細胞は発生後期まで多分化能を保持します。

このセミナーでは、調節能力の高い棘皮動物胚を使用して、生殖細胞および多分化能細胞を制御するメカニズムについて、近年の研究結果を元に考察したいと思います。

また海外での研究生活についても紹介させていただきます。

《 本セミナーは、5研究科共同セミナー認定科目です 》

連絡先：坂本尚昭（理学研究科 数理分子生命理学専攻 内線：7447）